

分担金・拠出金の名称	国際穀物理事会 (IGC) 分担金	評価	B
拠出先の国際機関名	国際穀物理事会 (International Grain Council : IGC)		
国際機関の概要	・ 1995年の穀物貿易規約の運用機関。現事務局長は我が国の北原悦男氏（2006年2月に就任。任期5年で現在2期目。）。 ・ 事務局はロンドン。加盟国は26か国＋EU。 ・ 穀物の貿易に関する国際協力の促進、国際穀物市場の安定への寄与、穀物貿易に関する情報交換及び討議の場の提供等を行っている。		
拠出により我が国が期待する成果目標及び活動指標		達成状況	
1. (1) 成果目標:国際穀物市場の安定への貢献 活動指標:IGCの取組を通じた主要輸出入国とのパートナーシップの強化		IGCは、穀物の貿易に関する国際協力の促進、国際穀物市場の安定への寄与、穀物貿易に関する情報交換及び討議の場の提供等を行っている。また、主要輸出入国が一堂に会し、穀物政策等についての情報・意見交換を行うことは、世界の食料安全保障に資することである。我が国は穀物（主に小麦、トウモロコシ）の約70%以上を海外からの輸入に依存しており、アメリカ、カナダ、オーストラリア等、我が国が輸入する主要穀物の輸入先が加盟しているIGCを通じて穀物市場及び貿易に関する情報を政府間で収集し、情報・意見交換することは、我が国の穀物の安定供給に向けた効果的な取組を行う上で重要、ひいては我が国の食料安全保障にもつながる。	
(2) 成果目標:IGCにおける我が国の発言力、影響力の確保 活動指標:IGCの運営意思決定機関における我が国の地位の継続的確保		我が国は、第4位の分担金拠出国として、理事会(全加盟国参加)、運営委員会(委員として、輸出加盟国、輸入加盟国それぞれから8か国ずつ選出)、予算委員会(10か国選出)、市況委員会(全加盟国参加)の各会合に参加し、IGCの組織運営・予算交渉プロセスに積極的に関与。	
(3) 成果目標:効率的な組織・財政マネジメントの実現 活動指標:組織運営・財政事項の見直しに係る取組の積極的な実施		IGCは、現在、2011年のG20において設立された農業市場情報システム(AMIS)の事務局メンバーとして、その運用及び情報発信において中心的役割を担い、世界の食料安全保障の強化に対する取組に貢献している。 IGCは、限られた資源における効率的・効果的な組織運営の遂行のため、現在、事務所契約、手続規則の見直し、予算項目の見直しを含めた中長期的な財政問題等に取り組んでおり、組織評価の実施についても検討を行っているところ、我が国は、理事会、運営委員会、予算委員会を通じ、各取組事項への我が国の意向を適切に反映させている。IGCの運営予算における各国分担金額は過去4年度連続で名目ゼロ成長。	
(4) 成果目標:我が国人材の知見、専門性を通じた世界の食料安全保障への貢献 活動指標:邦人職員の確保		事務局長を含めたIGCの職員数は17名であり、我が国からは北原悦男氏(農水省出身、元JICA理事)が事務局長として、2006年2月から着任。現在2期目であり、本年(2015年)6月開催の理事会にて2年間の任期延長が承認され、2018年1月末まで任期を務める予定。	
2. PDCAサイクルの確保		P:予算委員会、運営委員会で事務局予算案を精査。理事会にて予算案(及び各加盟国分担金額)の承認。 D:我が国の分担金の支払。IGCによる予算執行。 C:予算承認後の運営委員会、理事会によるIGCの運営・活動のモニタリング。 A:予算委員会、運営委員会、理事会等の協議を通じて、運営、執行における改善要望事項の申入れ(目下、制度改革に向けた協議を実施中。)	
担当課・室名	経済局 経済安全保障課		